

日本天文学会の皆さんへ

—安全保障と天文学シリーズの開始にあたって—

日本天文学会会長 柴田一成

2017年6月3日の日本天文学会代議員総会で、代議員であり、かつ日本学術会議会員の須藤靖さんより、安全保障と学術についての学術会議の声明とそこに至る議論に関する素晴らしい講演がありました。日本天文学会会員、特に若手会員のみなさんに、ぜひこの問題について真剣に考えてほしい、というのが須藤さんの熱いメッセージでした。それを受けて、理事会で議論した結果、まずは須藤さんに代議員総会での講演の内容を天文月報に寄稿していただく、それをスタートとして、何人かの方々にこの問題に関する記事を書いていただき、天文月報の連載記事としよう、ということになりました。これが本連載を開始する経緯です。

日本天文学会理事会として、本問題にどのようにかかわるか（かかわれるか）ということについても、理事会執行部（会長、副会長、庶務理事）で議論しました。その結果、本問題について日本天文学会としては以下のような方針で取り組んでいきたいと思っています。

- 1) 安全保障と学術に関する問題について、学会員からの意見を募集する。意見送付先メールアドレスは、iken@asj.or.jp。集まった意見をどのように集約し発信していくかについては、今後、次のステップとして議論していく。
- 2) 日本学術会議の「軍事的安全保障研究に関する声明」（2017年3月24日）には、「大学等の各研究機関は、施設・情報・知的財産等の管理責任を有し、国内外に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うことから、軍事的安全保障研究とみなされる可能性のある研究について、その適切性を目的、方法、応用の妥当性の観点から技術的・倫理的に審査する制度を設けるべきである。学協会等において、それぞれの学術分野の性格に応じて、ガイドライン等を設定することも求められる。」とあります（須藤氏記事も参照）。日本天文学会としては、まずはガイドラインの設定の是非から議論を開始したい。
- 3) 本年秋季年会の全体集会で、日本天文学会としての今後の取り組みの方針やプランについて簡単に報告する*。
- 4) 来年（2018年）春季年会で、全体集会の時間を増やすか、あるいは特別セッションを設けるなどして、本問題に関する議論を行う。

以上、安全保障と天文学に関する連載記事のスタートにあたって、現在、日本天文学会理事会執行部（会長、副会長、庶務理事）で考えている今後の議論の方針などを紹介させていただきました。本連載がきっかけとなって、日本天文学会会員の間で活発な議論が交わされることを期待しています。また、自由なご意見を iken@asj.or.jp までお送りください。

*編集部注：2017年9月12日開催の天文学会秋季年会会員全体集會にて報告済み。